

S	博物館実習1（事前指導） 科目コード： 23004
配当年次	2年次～
単位数	1
履修の前提条件	なし ※ 2011年度末までに本学で「博物館実習1」（1単位）・「博物館実習2」（2単位）の両科目とも単位修得済みの場合は本科目の履修不要
開講日程・ 開講地・定員	博物館実習1(事前指導)a 開催日程：2019年5月17日（金）～ 2019年5月19日（日） 開催地：京都、受講料： ￥13,000、定員：なし 博物館実習1(事前指導)b 開催日程：2019年5月24日（金）～ 2019年5月26日（日） 開催地：東京■、受講料： ￥16,000、定員：なし 博物館実習1(事前指導)c 開催日程：2020年2月7日（金）～ 2020年2月9日（日） 開催地：東京■、受講料： ￥16,000、定員：なし 博物館実習1(事前指導)d 開催日程：2020年2月21日（金）～ 2020年2月23日（日） 開催地：京都、受講料： ￥13,000、定員：なし 博物館実習1(事前指導)(芸術教養学科)a 開催日程：2019年5月17日（金）～ 2019年5月19日（日） 開催地：京都、受講料： ￥0、定員：なし 博物館実習1(事前指導)(芸術教養学科)b 開催日程：2019年5月24日（金）～ 2019年5月26日（日） 開催地：東京■、受講料： ￥0、定員：なし 博物館実習1(事前指導)(芸術教養学科)c 開催日程：2020年2月7日（金）～ 2020年2月9日（日） 開催地：東京■、受講料： ￥0、定員：なし 博物館実習1(事前指導)(芸術教養学科)d 開催日程：2020年2月21日（金）～ 2020年2月23日（日） 開催地：京都、受講料： ￥0、定員：なし
担当者	田中梨枝子*、高見澤こずえ、樋上千寿、大竹真由

科目概要と到達目標

本科目では、実際に館園実習に臨む「博物館実習2（館園実習）」に先立ち、学芸員の仕事を具体的に把握し、実務的な能力を養うための基礎を学びます。多岐にわたる学芸員の仕事内容、博物館（ミュージアム）の運営の現状、作品・資料を取扱うための知識や心構えなどを、講義やグループワークを通じて理解していきましょう。

到達目標は、学芸員として実務に携わる際に必要とされる基礎的知識を習得することです。

評価基準と成績評価方法

1. 授業に取り組む意欲
 2. グループワークでの積極性
 3. 提出物（※）の記述に見る学びの豊かさと深さ
- ※実習時間内にスクリーングレポートを提出いただきます。

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とし、主に授業への取り組みと課題により総合的に評価します。

予習・復習

●予習（受講前の準備）

現代の博物館が抱える問題点について、ご自身の観点からまとめておいてください。まとめた内容は、簡単なメモなどにして持参されることをお勧めします（提出する必要はありませんが、日程2日目のグループワークを円滑に進めるために役立ちます）。

●復習

実習で学んだ内容を各自で整理し、「博物館実習2（館園実習）」につなげる学習の準備をしてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『博物館実習ガイドブック』（京都造形芸術大学 東北芸術工科大学 出版局 藝術学舎） ※入手方法は『資格課程ガイド』を参照して購入してください。（印刷製本版については4月1日から販売開始です） ※既に『博物館実習の手引き』を所持している場合はそちらを使用可。
参考文献・URL	なし

授業計画

1日目

- 1講時 オリエンテーション 学芸員という仕事＜講義＞
- 2講時 「博物館実習2（館園実習）」にむけて＜ガイダンス＞
- 3講時 博物館概論＜講義＞
- 4講時 博物館資料論＜講義＞
- 5講時 博物館経営論＜講義＞

2日目

- 1講時 博物館情報・メディア論＜講義＞
- 2講時 博物館資料保存論＜講義＞
- 3～5講時 ミュージアムの現状＜講義・グループワーク＞

3日目

終日：学外館見学

- 〔京都〕大和文華館（奈良県奈良市）／天理参考館（奈良県天理市）
- 〔東京〕国立科学博物館（東京都台東区）／東京オペラシティアートギャラリー

●スクーリングレポート

授業内でスクーリングレポートに相当する以下の課題を提出していただきます。

1. 課題：

授業内で訪れる博物館（ミュージアム）について、ワークシートを作成すること。

2. 書式・文字数：

用紙は授業中に配布いたします。

※本レポートは添削・返却はいたしません。

受講にあたって

●持参物

全日程

- ・学生証
- ・筆記用具（特に鉛筆）
- ・ノートやメモ帳など

3日目

- ・A4判クリップボード
- ・カメラ（お持ちの方のみ）、またはスマートフォン可。

●諸経費

- ・館見学時の入館チケットは、引率教員がまとめて購入するため、個人では購入しないでください。
- ・見学実習にて移動する際、公共交通機関を利用する場合がございます。その際の交通費は各自ご負担となります。

●その他

本科目では、3日目に学外館で見学実習を行います。これを踏まえ、服装については以下の点に注意してください。

- ・長時間立ったり歩いたりしますので、その点に配慮した履物を着用してください。
- ・大きな荷物は、駅のコインロッカー等へ預けてください。
- ・華美でない動きやすい服装で出席してください。

※全日程を通じ、各自、体温調節のできる衣類をご用意ください。

注意事項

- ・本科目の単位修得は、授業の全講時出席を原則としています。
- ・実習期間中の欠席、遅刻、早退は認められません。

S	博物館実習2（館園実習） 科目コード： 23005
配当年次	3年次～
単位数	1
履修の前提条件	・以下の科目をスクーリング申し込みまで（学外館の方は前年度まで）に合格済みであること 「博物館概論」（「博物館学1」または「博物館概論（芸術学科）修得済みでも可） 「博物館経営論」（「博物館経営論（芸術学科）修得済みでも可） 「博物館資料論」（「博物館学2」または「博物館資料論（芸術学科）」修得済みでも可） 「博物館情報・メディア論」 「博物館生涯学習概論」 「博物館教育論」 「博物館資料保存論」 「博物館展示論」 「博物館実習1（事前指導）」 ・学外館で実習を希望される方は、指定期日までに『「博物館実習2（館園実習）」受講希望届』を提出していること（本学京都瓜生山キャンパスで受講される場合は提出不要） ※ 2011年度末までに本学で「博物館実習1」（1単位）・「博物館実習2」（2単位）の両科目とも単位修得済みの場合は本科目の履修不要です ※芸術教養学科・アトライティングコースの方は芸術館のみの受講となります
開講日程・ 開講地・定員	博物館実習2(館園実習)/芸術館a 開催日程：2019年8月3日（土）～ 2019年8月7日（水） 開催地：京都、受講料： ￥13,000、定員：20 博物館実習2(館園実習)/芸術館b 開催日程：2019年8月3日（土）～ 2019年8月4日（日）, 2019年8月17日（土）～ 2019年8月19日（月） 開催地：京都、受講料： ￥13,000、定員：20 博物館実習2(館園実習)/学外館6～8月 開催日程：2019年8月31日（土） 開催地：学外、受講料： ￥13,000、定員：なし 博物館実習2(館園実習)/学外館9～12月 開催日程：2019年12月31日（火） 開催地：学外、受講料： ￥13,000、定員：なし 博物館実習2(館園実習)/芸術館(芸術教養学科)a 開催日程：2019年8月3日（土）～ 2019年8月7日（水） 開催地：京都、受講料： ￥0、定員：20 博物館実習2(館園実習)/芸術館(芸術教養学科)b 開催日程：2019年8月3日（土）～ 2019年8月4日（日）, 2019年8月17日（土）～ 2019年8月19日（月） 開催地：京都、受講料： ￥0、定員：20
担当者	田中梨枝子*、毛利義嗣、近藤壮

科目概要と到達目標

「博物館実習1（事前指導）」では、学芸員の仕事の概略を把握しました。それを踏まえて「博物館実習2（館園実習）」では、実際の美術館・博物館で、本格的に学芸員の仕事に臨みます。

実習内容および日数は、実習を受ける館により異なります（学外館で実習を受けられる方の場合、近年では、美術品や資料の取り扱いについての実践の他に、デスクワークとしての文書作りを行う館や、教育普及事業に関する準備作業・実施までを体験させる館もあります）。

本科目の到達目標は、美術館・博物館で実際に行われている仕事に触れ、現場を経験することで、学芸員として職務にあたるために必要な具体的なスキルや知識を習得することです。

評価基準と成績評価方法

1. 実習に取り組む意欲
2. グループワークでの積極性
3. 提出物（博物館実習ノートおよびスクーリングレポート）の記述に見る学びの豊かさと深さ

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とし、主に授業への取り組みと課題により総合的に評価します。

なお、学外館で実習を行った方で、館より成績報告書の提出があった場合は、報告書の内容も加味し、総合的に評価します。

予習・復習

●予習（受講前の準備）

テキスト『博物館実習ガイドブック』を通読し、「資料の取り扱い」「展示を考える」に目を通しておいてください。

「博物館実習2（館園実習）」でお世話になる館は各自で異なるため、そこで目にする作品・資料も様々であるはずですが、基本的な心構えやマナーを知っておくために、同書の該当箇所を一読しておくことは有益です（ただし、実習期間中の作品の取り扱いについては、あくまでも館の担当学芸員の指示にその都度従うようにしてください）。

●復習

博物館学芸員課程での単位修得のためにこれまで提出してきたご自身のレポートを、今回の実習で学んだ事柄を踏まえつつ、もう一度振り返ってみてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『博物館実習ガイドブック』（京都造形芸術大学 東北芸術工科大学 出版局 芸術学舎） ※入手方法は『資格課程ガイド』を参照して購入してください。（印刷製本版については4月1日から販売開始です） ※既に『博物館実習の手引き』を所持している場合はそちらを使用可。
参考文献・URL	なし

課題

〔芸術館〕

1. 課題：

実習全体をふりかえり、学んだことや反省すべきこと、特に印象に残っていることをまとめなさい。

＜課題作成上の注意事項＞

- ・項目を立てて記してください。
- ・文体は原則として常体とします。

2. 書式・文字数：

『博物館実習ノート』内「実習のまとめ」に2,400字程度・ヨコ書き
※別紙をノートに貼り付けてもかまいません。

3. 提出締切日：

【a日程】2019年8月21日（水）【必着】

【b日程】2019年9月4日（水）【必着】

※上記期限を過ぎた場合は受付いたしません。

4. 提出先：

【郵送提出】「通信教育部スクーリングレポート受付係」宛

【窓口提出】瓜生山キャンパス人間館中2階通信教育部事務局窓口（提出締切日の受付時間内）

※ スクーリングに出席しても上記期限までに事後課題の提出がない場合は、本科目の評価は「不合格」となります。その場合は翌年度以降に再履修が必要です。

〔学外館〕

1. 課題：

実習先の指示に従ってください。

※特に指示がなければ、上記にある芸術館と同じ課題を提出してください。

2. 書式・文字数：

実習先の指示に従ってください。

3. 提出締切日：

実習終了から翌々週の水曜日【必着】

※館によってはこの限りではありません（館から直接大学に送付される等）

4. 提出先：

【郵送提出】「通信教育部教務課 博物館学芸員課程」宛

【窓口提出】瓜生山キャンパス人間館中2階通信教育部事務局窓口（提出締切日の受付時間内）

※ スクーリングに出席しても上記期限までに事後課題の提出がない場合は、本科目の評価は「不合格」となります。その場合は翌年度以降に再履修が必要です。

授業計画

〔芸術館〕

1日目

1講時 オリエンテーション、展覧会をつくる＜講義＞
2講時 展覧会をつくる＜講義＞
3～5講時 展覧会の広報を考える＜講義とグループワーク＞
2日目
1～2講時 グループA：美術作品（掛軸・卷子）の取り扱い＜実習＞
 グループB：美術作品（額装）の梱包・展示＜実習＞
3～4講時 グループA：美術作品（額装）の梱包・展示＜実習＞
 グループB：美術作品（掛軸・卷子）の取り扱い＜実習＞
5講時 博物館資料の調査＜実習＞

3日目
1～2講時 博物館展示論＜講義＞
3～5講時 展覧会の立案＜グループワーク＞

4日目
1～5講時 博物館資料の展示＜実習＞

5日目
1～2講時 博物館の教育普及活動＜講義＞
3～4講時 博物館の教育普及活動＜演習＞
5講時 展示撤収作業＜実習＞

〔学外館〕
実習スケジュールは、実習館により異なります。

受講にあたって

- 持参物
〔芸術館〕
全日程
 - ・筆記用具（特に鉛筆）
 - ・ノートやメモ帳など
 - ・A4判クリップボード
 - ・白手袋
 - ・マスク（またはハンカチ）
 - ・コンベックス（お持ちの方のみ）
 - ・カメラ（お持ちの方のみ）、またはスマートフォン可
 - ・長袖の服
 - ・髪の毛を束ねるゴム（髪の毛が長い方のみ）
- ※博物館実習ノートは実習初日に配付します。

2日目 資料の梱包・取扱いに使用

- ・布メジャー（メートル指定なし）
- ・ハサミ
- ・カッターナイフ
- ・ルーペ（単眼鏡 または 虫眼鏡）
- ・LED懐中電灯（お持ちの方のみ）

〔学外館〕

- ・博物館実習ノート

※ 実習開始日までに本学より送付します。

持参物は、実習館により異なりますので、館からの指示に従ってください。

但し、夏季に実施されることが多いですが、初日は必ず長袖のはおりものを持参して行くこと。

なお通常、博物館内で用いる筆記用具は鉛筆ですので、鉛筆も持っていくこと。

●諸経費

〔学外館〕で受講する場合、館によって、実習費が13,000円を超えることがあります。

●その他

本科目では、美術作品の取扱いや展示といった実務実習を行います。これを踏まえ、服装については以下の点を注意してください。

・華美でない動きやすい服装で出席してください。大ぶりなブローチ等の装飾品などがついた服装は不可です。短いスカート、半ズボン、動きに伴って広がる（あるいは垂れる）ような大きな襟や大きなボタンや飾りがついた服装などは避けてください。長いネックレスや指輪、ヴォリュームのある装身具等を身に着けてこられることは構いませんが、実習の際には外していただきます。

・手の爪を短く切っておいてください。マニキュアは厳禁です。

・作品保護の観点から、香水（オーデコロンを含む）はつけてこないでください。

・美術作品に触れる機会がありますので、長袖のはおりものを準備してください。

・靴下（ストッキングでも可）を着用し、足元が安定する靴を履いて来てください。ハイヒール、サンダル等は不可です。特に展示実習の際には、脚立にあがることもありますので、その辺りを想定してください。

●「博物館実習2（館園実習）」受講希望届

学外館希望の方は、指定期日までに『「博物館実習2（館園実習）」受講希望届』を提出する必要があります。

注意事項

- ・本科目の単位修得は、授業の全講時出席を原則としています。
- ・実習期間中の欠席、遅刻、早退は認められません。
- ・開始日時の誤認等にはくれぐれもご注意ください。

S	博物館実習3（事後指導） 科目コード： 23006
配当年次	3年次～
単位数	1
履修の前提条件	・「博物館実習2（館園実習）」の履修の前提条件にかかわる科目をすべて合格済みであること ・「博物館実習2（館園実習）」を合格済みであること ※ 2011年度末までに本学で「博物館実習1」（1単位）・「博物館実習2」（2単位）の両科目とも単位修得済みの場合は本科目の履修不要
開講日程・ 開講地・定員	博物館実習3(事後指導)a 開催日程：2020年1月17日（金）～ 2020年1月19日（日） 開催地：東京■、受講料： ￥16,000、定員：なし 博物館実習3(事後指導)b 開催日程：2020年1月11日（土）～ 2020年1月13日（月） 開催地：京都、受講料： ￥13,000、定員：なし 博物館実習3(事後指導)(芸術教養学科)a 開催日程：2020年1月17日（金）～ 2020年1月19日（日） 開催地：東京■、受講料： ￥0、定員：なし 博物館実習3(事後指導)(芸術教養学科)b 開催日程：2020年1月11日（土）～ 2020年1月13日（月） 開催地：京都、受講料： ￥0、定員：なし
担当者	田中梨枝子*、毛利義嗣、大竹真由、樋上千寿、坂本恭子

科目概要と到達目標

「博物館実習1（事前指導）」、「博物館実習2（館園実習）」を総括しつつ、博物館（ミュージアム）の今後を展望します。情報発信のあり方や、生涯学習社会における社会教育機関としての役割といった観点から、これまでに学んだ知識を整理し、博物館の運営や学芸員の仕事について改めて考えていきましょう。

学芸員として実際に勤務したり、学芸員資格を活かして社会に貢献したりするために必要な実践的知識を習得することが、本科目の到達目標です。

評価基準と成績評価方法

1. 授業に取り組む意欲
 2. グループワークでの積極性
 3. 提出物（※）の記述に見る学びの豊かさと深さ
- ※実習時間内にスクリーングレポートを提出いただきます。

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とし、主に授業への取り組みと課題により総合的に評価します。

予習・復習

●予習（受講前の準備）

様々な博物館（ミュージアム）のチラシ、パンフレットのなかから、情報発信のうえで特に効果をあげていると思われるものを2、3点選び、当日持参してください。提出する必要はありませんが、グループワーク内で使用します。なお、チラシ、パンフレットは、無理なく手に入れることができるものでかまいません。

●復習

実習で学んだ内容を踏まえ、今後の博物館（ミュージアム）活動のあり方について、各自の考えを整理しておきましょう。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『博物館実習ガイドブック』（京都造形芸術大学 東北芸術工科大学 出版局 藝術学舎） ※入手方法は『資格課程ガイド』を参照して購入してください。（印刷製本版については4月1日から販売開始です） ※既に『博物館実習の手引き』を所持している場合はそちらを使用可。
参考文献・URL	なし

授業計画

1日目

終日：学外館見学

〔京都〕 竹中大工道具館

〔東京〕 民音音楽博物館／東京おもちゃ美術館／消防博物館（東京都新宿区）

2日目

1～2講時 博物館と生涯学習＜講義＞

3講時 博物館の情報発信＜講義＞

4～5講時 既存館のリニューアル企画を立案＜グループワーク＞

3日目

1～4講時 既存館のリニューアル企画を立案＜グループワーク＞

5講時 学芸員と博物館＜講義＞

●スクーリングレポート

実習授業内でスクーリングレポートに相当する以下の課題を提出していただきます。

1. 課題：

実習で学んだ内容を踏まえ、今後の博物館（ミュージアム）活動のあり方について、自分の考えるところを述べなさい。

2. 書式・文字数：

用紙は授業中に配布いたします。

※本レポートは添削・返却いたしません。

受講にあたって

●持参物

全日程

- ・学生証
- ・筆記用具（特に鉛筆）
- ・ノートやメモ帳など

1日目

- ・A4判クリップボード
- ・カメラ（お持ちの方のみ）、またはスマートフォン可

2日目

- ・博物館のチラシ・パンフレット 2～3点

●諸経費

- ・館見学時の入館チケットは、引率教員がまとめて購入するため、個人では購入しないでください。
- ・見学実習にて移動する際、公共交通機関を利用する場合がございます。その際の交通費は各自ご負担となります。

●その他

本科目では、1日目に学外館で見学実習を行います。これを踏まえ、服装については以下の点に注意してください。

- ・長時間立ったり歩いたりしますので、その点に配慮した履物を着用してください。
- ・大きな荷物は、駅のコインロッカー等へ預けてください。
- ・華美でない動きやすい服装で出席してください。

※全日程を通じ、各自、体温調節のできる衣類をご用意ください。

TR	博物館概論（学芸員課程）	科目コード： 23607
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※芸術学科・美術科・デザイン科・芸術教養学科の方は博物館学芸員課程に登録していること、2年次～の履修です。 ※2011年度末までに「博物館学1」（2単位）未履修の場合、本科目を修得すること（「博物館学1」単位修得済みの場合は履修不要） ※2016年度末までに「博物館概論（芸術学科）」修得済みの場合は履修不要	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口・airU ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。ただし、芸術教養学科・アトライティングコース・科目等履修生はairUのみ。	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。 ※芸術教養学科・アトライティングコース・科目等履修生はairUの	
単位修得試験	有	
担当者	田中梨枝子*、毛利義嗣、高見澤こずえ、樋上千寿、大竹真由、清水亜弥、福田絵梨子、和田かおり、幡鎌真理、小川文子、山下彩華、貴家映子	

科目概要と到達目標

博物館（ミュージアム）とは何か。日本の法体系のなかでは社会教育機関のひとつとされていますが、そこに至るまでには長い歴史がありました。本科目では、博物館・美術館等の存在意義の歴史の変遷を辿り、その上で、現代の館が抱える問題について考察します。

まず、テキスト『博物館の歴史・理論・実践1 博物館という問い』第一章「博物館概論」を熟読し、次の点を重点的に理解します。

- ・博物館学とは何か、博物館学を学ぶことの意義（テキスト第一節）
- ・国内外の博物館の歴史（テキスト第二節）
- ・博物館の定義、機能、目的と学芸員の役割（テキスト第三節）
- ・博物館の種類、連携及び博物館関係法令（テキスト第四節）
- ・博物館の現状とこれからの可能性（テキスト第五節）

これを踏まえた上で、実際に博物館を見学・調査し、レポート課題を作成することを通じて、日本の博物館や学芸員が置かれた現状を具体的に考えていきます。

本科目の到達目標は、博物館に関する基礎的知識を整理し、専門性の土台となる能力を養うことです。

評価基準と成績評価方法

1. テキスト（参考文献を含む）の内容の理解

2. 課題内容の理解と調査の適切さ
3. 十分な論理性、独自性、説得力をもった受講生自身の見解の明示
4. 文章表記の正確さと構成の明瞭性

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

成績評価方法は、全課題の平均と試験の平均です。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『博物館の歴史・理論・実践1 博物館という問い』今村信隆 編（京都造形芸術大学 東北芸術工科大学 出版局 藝術学舎）
参考文献・URL	『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編（芙蓉書房出版） 『文化の「肖像」ーネットワーク型ミュージオロジーの試み』吉田憲司 著（岩波書店） 『美術館の可能性』並木誠士・中川理 著（学芸出版社）

レポート課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	1. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入） 2. レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面8枚程度・ヨコ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に3,200文字程度・ヨコ書き 3. 宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 添削指導評価書と3. 宛名表紙は不要です。 ※芸術教養学科・アトライティングコース・科目等履修生の課題提出形態はairUのみです。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入） 2. 再提出レポート本文 3. 前回提出（=D評価）のレポート（添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 再提出用添削指導評価書と3. 前回提出レポートは不要です。 ※芸術教養学科・アトライティングコース・科目等履修生の課題提出形態はairUのみです。

課題の内容

以下の設問に答えてください。また、レポート全体の趣旨を表すタイトルを文頭に記してください。

【設問】

規模の異なる2つの博物館（ミュージアム）を実際に見学・調査したうえで、その知見を踏まえて、これからの日本の博物館が目指すべきところについて論じてください（3,200字程度）。

学習のポイント

- ・課題に取り組むにあたり、まずはテキスト第一章「博物館概論」をよく読んでください。
- ・そのうえで、実際に博物館（ミュージアム）を見学・調査してください。
- ・ここでいう調査は単なる観覧ではありませんので、予め何点かの検討項目を設定しておくことが求められます。たとえば、「常設展示はコレクションを有効活用した内容となっているかどうか」、「調査研究の成果は積極的に公開されているか」、「多様な利用者への配慮が見られるか」、「地域社会へ向けてのはたらきかけは行われているか」などの観点が考えられるでしょう。
- ・また、展示を観覧するだけでは調査になりません。収集、保存、調査・研究、展示・教育といった諸活動がどのように行われているか、それぞれの活動がどのように連動しているかを調べてみることも重要です。

●課題の取り組み方

- ・この課題では、実際に2館を見学・調査した結果を十分にまとめながら、そこからさらに踏み込んで、ご自身の見解を述べていただくことを求めています。
- ・見学・調査する館の館種は問いません。
- ・見学・調査の報告においても、ご自身の見解においても、できる限り学芸員の立場に寄り添って論述を進めるよう心がけてください。単なる批判や要望でなく、現状や歴史的背景をよく理解したうえでの建設的な提言を求めています。

TR	博物館経営論（学芸員課程） 科目コード： 23608
配当年次	1年次～
単位数	2
履修の前提条件	なし ※芸術学科・美術科・デザイン科・芸術教養学科の方は博物館学芸員課程に登録していること、2年次～の履修です。 ※2011年度末までに「博物館学2」（4単位）を単位修得済みの場合でも、本科目を修得すること ※2016年度末までに「博物館経営論（芸術学科）」修得済みの場合は履修不要
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験
課題提出形態	郵送・窓口・airU ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。ただし、芸術教養学科・アトライティングコース・科目等履修生はairUのみ。
課題数	1
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。 ※芸術教養学科・アトライティングコース・科目等履修生はairUの
単位修得試験	有
担当者	毛利義嗣*、田中梨枝子、近藤壮、郷司泰仁、齋藤希、高見澤こずえ、渡邊麻里、岡本梓、山下彩華

科目概要と到達目標

博物館の経営・運営には、一般企業を経営・運営する場合とは異なる、特殊な側面があります。たとえば、基本的には営利を主目的とせず、何らかの使命を果たすことを目指して活動がなされます。また、その使命は現在の社会だけにかかわるものではなく、文化の継承や発展も見据え、過去と未来を視野に入れたものでなければなりません。けれども他方で博物館は、一般企業と同様に、限られた資源を用い、できるかぎり効率的・効果的に経営・運営されることも求められています。なぜならそこには、貴重な公的資金やそのほかの資源、博物館を支える多くの人々の労力や熱意が投入されているからです。本科目では、こうした問題を踏まえつつ、社会のなかでの博物館の役割について考察します。

テキスト『博物館の歴史・理論・実践 2 博物館を動かす』第三章「博物館経営論」を熟読し、次の点を重点的に理解します。

- ・博物館をとりまく環境と経営論の意義、博物館の使命、博物館倫理（テキスト第一節）
- ・博物館組織、設備の特徴、利用者との関係（テキスト第二節）
- ・博物館経営の論理と実際、特にマネジメントと評価（テキスト第二節及び第三節）
- ・博物館における連携と発信、市民参画、地域社会との関係（テキスト第四節）

これを踏まえた上で、レポート課題を作成することを通じて、博物館の適切な管理・運営について、具体的に考えていきます。

本科目の到達目標は、博物館の形態面と活動面における適切な管理・運営について理解し、博物館経営（ミュージアムマネジメント）に関する基礎的能力を養うことです。

評価基準と成績評価方法

1. テキスト（参考文献を含む）の内容の理解
2. 課題内容の理解と調査の適切さ
3. 十分な論理性、独自性、説得力をもった受講生自身の見解の明示
4. 文章表記の正確さと構成の明瞭性

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

成績評価方法は、全課題の平均と試験の平均です。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『博物館の歴史・理論・実践2 博物館を動かす』今村信隆 編（京都造形芸術大学 東北芸術工科大学 出版局 藝術学舎）
参考文献・URL	『博物館学入門—地域博物館学の提唱』金山喜昭 著（慶友社） 『美術館商売—美術なんて…と思う前に』安村敏信 著（勉誠出版） 『アーツ・マネジメント概論 三訂版』小林真理・片山泰輔 監修（水曜社）

レポート課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	1. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入） 2. レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面8枚程度・ヨコ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に3,200文字程度・ヨコ書き 3. 宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 添削指導評価書と3. 宛名表紙は不要です。 ※芸術教養学科・アートライティングコース・科目等履修生の課題提出形態はairUのみです。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入） 2. 再提出レポート本文 3. 前回提出（=D評価）のレポート（添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 再提出用添削指導評価書と3. 前回提出レポートは不要です。 ※芸術教養学科・アートライティングコース・科目等履修生の課題提出形態はairUのみです。

課題の内容

以下の設問に答えてください。また、レポート全体の趣旨を表すタイトルを文頭に記してください。

【設問】

あなたの住む地域にミュージアムを新たに建設すると仮定します。

具体的にどのような場所にどのような施設を作り、どのような事業を展開するか、新設のミュージアムの構想について、以下の項目に沿って述べ、論じてください（3,200字程度）。

前提 建設地の地域的特長と既設館について

- (1) 名称
- (2) 立地（おおよその住所や地域）
- (3) 設置者（運営母体）
- (4) 施設
- (5) コレクションの内容
- (6) 年間事業計画の概略
- (7) 館建設の意義と館の特徴

TR	博物館資料論（学芸員課程） 科目コード： 23609
配当年次	1年次～
単位数	2
履修の前提条件	なし ※芸術学科・美術科・デザイン科・芸術教養学科の方は博物館学芸員課程に登録していること、2年次～の履修です。 ※2011年度末までに「博物館学2」（4単位）未履修の場合、本科目を修得すること（「博物館学2」単位修得済みの場合は履修不要） ※2016年度末までに「博物館資料論（芸術学科）」修得済みの場合は履修不要
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験
課題提出形態	郵送・窓口・airU ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。ただし、芸術教養学科・アトライティングコース・科目等履修生はairUのみ。
課題数	1
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。 ※芸術教養学科・アトライティングコース・科目等履修生はairUの
単位修得試験	有
担当者	毛利義嗣*、田中梨枝子、平井鉄寛、齋藤希、高見澤こずえ、内田ひろみ、幡鎌真理、山下彩華

科目概要と到達目標

博物館の一連の活動 一収集、整理保管、調査研究、展示、教育普及一 は、「資料」なくしては成立しません。この科目では、様々な物品が博物館に集められ、総じて博物館資料と呼ばれるようになっていく過程と、資料を活用した博物館活動のあり方を理解します。博物館資料とは何か、何が資料となり得るのか、そしてそれはどのように研究され、社会的に還元されるのか、ということを学習し、「資料」という概念と、資料を通して見た博物館の活動について理解を深めます。

テキスト『博物館の歴史・理論・実践1 博物館という問い』第二章「博物館資料論」を熟読し、次の点を重点的に理解します。

- ・博物館資料の概念、種類（テキスト第一節）
- ・博物館資料の収集、基礎と実際（テキスト第二節及び第三節、第四節）
- ・博物館における調査研究と還元（テキスト第三節及び第四節）

これを踏まえた上で、実際に博物館を見学・調査し、レポート課題を作成することを通じて、博物館における資料収集や整理・保管、調査研究活動等について、具体的に考えていきます。

本科目の到達目標は、博物館資料の収集、整理保管等に関する理論や方法に関する知識・技術を習得し、また博物館の調査研究活動について理解することを通じて、博物館資料に関する基礎的能力を養うことです。

評価基準と成績評価方法

1. テキスト（参考文献を含む）の内容の理解
2. 課題内容の理解と調査の適切さ
3. 十分な論理性、独自性、説得力をもった受講生自身の見解の明示
4. 文章表記の正確さと構成の明瞭性

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

成績評価方法は、全課題の平均と試験の平均です。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『博物館の歴史・理論・実践1 博物館という問い』今村信隆 編（京都造形芸術大学 東北芸術工科大学 出版局 藝術学舎）
参考文献・URL	「公益財団法人日本博物館協会」 http://www.j-muse.or.jp/

レポート課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	1. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入） 2. レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面8枚程度・ヨコ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に3,200文字程度・ヨコ書き 3. 宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 添削指導評価書と3. 宛名表紙は不要です。 ※芸術教養学科・アトライティングコース・科目等履修生の課題提出形態はairUのみです。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入） 2. 再提出レポート本文 3. 前回提出（=D評価）のレポート（添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 再提出用添削指導評価書と3. 前回提出レポートは不要です。 ※芸術教養学科・アトライティングコース・科目等履修生の課題提出形態はairUのみです。

課題の内容

以下の設問に答えてください。また、レポート全体の趣旨を表すタイトルを文頭に記してください。

【設問】

美術館学芸員のあなたが、「地域ゆかりの美術作品」（素描、版画を含む絵画、彫刻、工芸、書等）を軸にした活動を一任されたと仮定します。そこで、以下の4つの項目について、博物館資料論の観点から活動計画を立ててください（3,200字程度）。

1. 収集方針
2. 作品の管理
3. 調査研究とその還元
4. 二次資料の活用

なお、論述にあたっては、必ず他館の具体的な事例を2館以上採り上げて調査し本文内で説明しつつ、それらの事例からあなたの計画のために学び得ることを整理して記してください。

TR	博物館情報・メディア論	科目コード： 23610
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※芸術学科・美術科・デザイン科・芸術教養学科の方は博物館学芸員課程に登録していること、2年次～の履修です。 ※2011年度末までに「博物館学2」（4単位）、「視聴覚教育メディア論」（1単位）をともに単位修得済みの場合であっても、本学における資格取得要件を満たすためには本科目を修得すること	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口・airU ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。ただし、芸術教養学科・アトライティングコース・科目等履修生はairUのみ。	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。 ※芸術教養学科・アトライティングコース・科目等履修生はairUの	
単位修得試験	有	
担当者	近藤壮*、金澤秀美、吉良智子、小勝禮子、黒田加奈子、次六尚子、伊藤杏子	

科目概要と到達目標

博物館における情報・メディアの活用は、コンピューター等の進展に伴う情報技術革新により、ますます重要となっています。

そして、各博物館において実践される情報の管理・提供、教育普及などの博物館活動は、広く公共に還元するという点で、地域の社会教育・生涯学習に重要な役割を担うものといえます。

本科目では、博物館における情報・メディアの理論について、その活用方法、情報発信、知的財産などの観点から学習します。

具体的には、テキスト『博物館の歴史・理論・実践 2 博物館を動かす』第四章「博物館情報・メディア論」を熟読し、次の点を重点的に学びます。

- ・博物館における情報・メディアの意義と、博物館のメディア性（テキスト第一節）
- ・博物館情報の種類、博物館の諸活動の情報化、ICT社会の中の博物館（テキスト第二節）
- ・情報の管理と公開、特に知的財産権（特に著作権）、個人情報、権利処理（テキスト第三節）
- ・映像等の各種メディア機器やインターネットの利活用、及びデータベース、デジタルアーカイブ等の現状と可能性（テキスト第四節）

本科目の到達目標は、このテキストの学習を踏まえた上で、実際に博物館を見学・調査し、学術的レポートの作成を通して、博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解し、博物館の提供と活用等に関する基礎的能力を養うことです。

評価基準と成績評価方法

1. テキスト（参考文献を含む）の内容の理解
2. 課題内容の理解と調査の適切さ
3. 十分な論理性、独自性、説得力をもった受講生自身の見解の明示
4. 文章表記の正確さと構成の明瞭性

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

成績評価方法は、全課題の平均と試験の平均です。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『博物館の歴史・理論・実践2 博物館を動かす』今村信隆 編（京都造形芸術大学 東北芸術工科大学 出版局 藝術学舎）
参考文献・URL	『新しい博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編（芙蓉書房） フィールドワークを行うミュージアムのパンフレット、関係書籍等 フィールドワークを行うミュージアムのウェブサイト等

レポート課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	1. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入） 2. レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面8枚程度・ヨコ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に3,200文字程度・ ヨコ書き 3. 宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返 送先明記・切手不要） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 添削指導評価書と3. 宛名表紙は不要 です。 ※芸術教養学科・アートライティングコース・科目等履修生の課題提出形態はairU のみです。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入） 2. 再提出レポート本文 3. 前回提出（=D評価）のレポート（添削指導評価書（添削文含む）、レポート本 文、宛名表紙） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 再提出用添削指導評価書と3. 前回提 出レポートは不要です。 ※芸術教養学科・アートライティングコース・科目等履修生の課題提出形態はairU のみです。

課題の内容

以下の設問に答えてください。また、レポート全体の趣旨を表すタイトルを文頭に記してください。

【設問】

2つ以上の異なる博物館を採り上げ、それぞれ、どのような情報・メディアが活用されているか、博物館活動の情報化の観点から、具体的事例をあげ、比較して論じなさい（3,200字程度）。

※必要に応じて画像や資料なども添付し、参照した参考文献、資料、URL（参照年月日を明記）等は、注などを用いて必ず書誌情報を明記してください。

TR	博物館生涯学習概論	科目コード： 23611
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※芸術学科・美術科・デザイン科・芸術教養学科の方は博物館学芸員課程に登録していること、2年次～の履修です。 ※2011年度末までに「生涯学習概論」（1単位）を単位修得済みの場合であっても、本学における資格取得要件を満たすためには本科目を修得すること	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口・airU ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。ただし、芸術教養学科・アートライティングコース・科目等履修生はairUのみ。	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。 ※芸術教養学科・アートライティングコース・科目等履修生はairUの	
単位修得試験	有	
担当者	田中梨枝子*、神内有理、吉田拓、齋藤希、下田智子、田島菜摘、猿山隆子、池田法子、奥田浩貴、小川文子	

科目概要と到達目標

国際化・情報化・高齢化が急速に進む現代社会において、生涯学習の重要性は高まるばかりです。そのような社会のなかで、社会教育施設の一つである博物館（ミュージアム）の学芸員には、生涯学習に対する理解がますます求められるようになっていきます。この科目では、生涯学習とは何か、その目的と意義は何であるか、より良い生涯学習社会を実現するためには何が必要かといった点を、地域とも結びつけながら、検証・考察していきましょう。

まず、テキスト『博物館の歴史・理論・実践 3 挑戦する博物館』第八章「博物館生涯学習概論」を熟読し、次の点を重点的に理解します。

- ・生涯学習論の生成と展開、及び生涯学習の意義と特性（テキスト第一節）
- ・生涯学習・社会教育の意義と特性、社会教育行政の役割（テキスト第一節、第二節）
- ・生涯学習における学習者と学習支援者の特性（テキスト第三節）
- ・生涯学習における家庭教育・学校教育・社会教育の役割と連携（テキスト第四節）
- ・生涯学習と地域との関わり（テキスト第四節、第五節）

これを踏まえた上で、地域の博物館で行われている生涯学習にかかわる活動を調査し、レポートを作成して、生涯学習社会における博物館のあり方について、具体的に考えていきます。

本科目の到達目標は、生涯学習及び社会教育の意義を理解すること、及び、生涯学習に関する制度、家庭教育・学校教育との関係、専門的職員の役割、学習活動への支援等についての理解を深めることです。

評価基準と成績評価方法

1. テキスト（参考文献を含む）の内容の理解
2. 課題内容の理解と調査の適切さ
3. 十分な論理性、独自性、説得力をもった受講生自身の見解の明示
4. 文章表記の正確さと構成の明瞭性

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

成績評価方法は、全課題の平均と試験の平均です。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『博物館の歴史・理論・実践3 挑戦する博物館』今村信隆 編（京都造形芸術大学 東北芸術工科大学 出版局 藝術学舎）
参考文献・URL	『生涯学習概論：知識基盤社会で学ぶ・学びを支える』渡邊洋子編著（ミネルヴァ書房） 『テキスト生涯学習—学びがつむぐ新しい社会』田中雅文、柴田彩千子、宮地孝宜、坂口緑 共著（学文社） 『生涯学習の基礎〔新版〕』鈴木真理、永井健夫、梨本雄太郎 編著（学文社） 『司書・学芸員をめざす人への生涯学習概論』大堀哲 編集／高山正也、中村正之、西川万文、村田文生 共著（樹村房）

レポート課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	1. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入） 2. レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面8枚程度・ヨコ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に3,200文字程度・ヨコ書き 3. 宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 添削指導評価書と3. 宛名表紙は不要です。 ※芸術教養学科・アートライティングコース・科目等履修生の課題提出形態はairUのみです。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入） 2. 再提出レポート本文 3. 前回提出（=D評価）のレポート（添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 再提出用添削指導評価書と3. 前回提出レポートは不要です。 ※芸術教養学科・アートライティングコース・科目等履修生の課題提出形態はairUのみです。

課題の内容

以下の設問に答えてください。また、レポート全体の趣旨を表すタイトルを文頭に記してください。

【設問】

博物館が地域社会において担うべき生涯学習上の役割とは何か。自らの経験や具体例を踏まえつつ、論じなさい。（3,200字程度）

TR	博物館教育論	科目コード： 23612
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※芸術学科・美術科・デザイン科・芸術教養学科の方は博物館学芸員課程に登録していること、2年次～の履修です。 ※2011年度末までに「教育学概論」（1単位）を単位修得済みの場合であっても、本学における資格取得要件を満たすためには本科目を修得すること	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口・airU ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。ただし、芸術教養学科・アートライティングコース・科目等履修生はairUのみ。	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。 ※芸術教養学科・アートライティングコース・科目等履修生はairUの	
単位修得試験	有	
担当者	田中梨枝子*、井須圭太郎、落合教幸、篠田雅人、林東洋、吉武光雄、田島菜摘、左海きほ、島田一葉、本多慶輝、宮本郷史、柳澤恵理子、中山慎太郎	

科目概要と到達目標

社会教育の場として博物館が果たすべき役割は、年々増加傾向にあります。博物館内で来館者に向けて行われる教育普及活動はもちろんのこと、アウトリーチ活動も行われ、学校現場との協力体制を整える必要性も出てきました。さらに生涯学習の多様化により、学校教育以外に幼児から高齢者まで幅広い世代に対応した教育普及事業のニーズの高まりも挙げられます。今や学芸員は、博物館の専門職員でありながらも地域社会における教育指導者として、社会貢献することが求められているといえますのでそれらについて理解を深め、実践的な教育事業について考察します。

テキスト『博物館の歴史・理論・実践3 挑戦する博物館』第七章「博物館教育論」を熟読し、次の点を重点的に理解します。

- ・博物館教育の意義と理念、博物館における学びの特性（テキスト第一節）
- ・博物館教育の手法、企画と実施、学校教育との連携（テキスト第二節）
- ・博物館の利用実態と利用者の博物館体験（同上）
- ・博物館の諸機能の教育的意義と館運営（テキスト第三節）
- ・博物館教育の展望、その方針と評価（テキスト第四節）

本科目ではテキストやフィールドワークを通じて、博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養うことを目的とします。

評価基準と成績評価方法

1. テキスト（参考文献を含む）の内容の理解
2. 課題内容の理解と調査の適切さ

3. 十分な論理性、独自性、説得力をもった受講生自身の見解の明示
4. 文章表記の正確さと構成の明瞭性

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

成績評価方法は、全課題の平均と試験の平均です。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『博物館の歴史・理論・実践3 挑戦する博物館』今村信隆 編（京都造形芸術大学 東北芸術工科大学 出版局 藝術学舎）
参考文献・URL	『博物館の学びをつくりだす その実践へのアドバイス』小笠原喜康、チルドレンズ・ミュージアム研究会 編著（ぎょうせい） 『博物館で学ぶ』ジョージ・E・ハイン 著（同成社） 『美術科教育の基礎知識』福田隆真、福本謹一、茂木一司 著（建帛社）

レポート課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	1. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入） 2. レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面8枚程度・ヨコ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に3,200文字程度・ヨコ書き 3. 宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 添削指導評価書と3. 宛名表紙は不要です。 ※芸術教養学科・アトライティングコース・科目等履修生の課題提出形態はairUのみです。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入） 2. 再提出レポート本文 3. 前回提出（=D評価）のレポート（添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 再提出用添削指導評価書と3. 前回提出レポートは不要です。 ※芸術教養学科・アトライティングコース・科目等履修生の課題提出形態はairUのみです。

課題の内容

以下の設問に答えてください。また、レポート全体の趣旨を表すタイトルを文頭に記してください。

【設問】

あなたの居住／活動する地域の美術・博物館において実施されている教育普及事業の事例を調査・体験しなさい。それを踏まえ教育的配慮という観点から、それらの活動の学びの意義と独自性、および博物館教育の展望についてあなた自身の考えを述べなさい（3,200字程度）。

※注意点

参加可能な教育活動にはなるべく多くの事例を調査・体験すること。対象年齢等の制限により参加不可のものについては出来る限り資料や参考文献を探すこと。

TR	博物館資料保存論	科目コード： 23613
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※芸術学科・美術科・デザイン科・芸術教養学科の方は博物館学芸員課程に登録していること、2年次～の履修です。	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口・airU ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。ただし、芸術教養学科・アトライティングコース・科目等履修生はairUのみ。	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。 ※芸術教養学科・アトライティングコース・科目等履修生はairUのみ。	
単位修得試験	有	
担当者	田中梨枝子*、高見澤こずえ、奥村晃代、石井里佳、植田直見、實井香那子、和田かおり	

科目概要と到達目標

資料の「保存」と「活用」は、基本的には矛盾する行為です。保存のことだけを考えるならば、たとえば紙資料には光を当てないことが最善でしょう。しかしそれでは、展覧会を開催して作品を鑑賞してもらうことも、資料を通して新たな学びを提供することも、調査研究を行って諸学問の探求に寄与することもできません。そこで博物館では、資料を慎重に活用しつつ、同時に、より良好な場外で資料を後世に伝えていくという機能も果たすために、さまざまな方策を採っています。

本科目では、資料を害する諸要因と望ましい保存環境について整理し、博物館が行っている資料を適切に保存するための活動について学習しながら、博物館における資料保存の社会的な意義について考えていきます。

まず、テキスト『博物館の歴史・理論・実践 2 博物館を動かす』第五章「博物館資料保存論」を熟読し、次の点を重点的に理解します。

- ・博物館における資料保存の意義（テキスト第一節）
- ・資料を害する要因と資料の損傷・劣化の種類（テキスト第二節）
- ・資料の状態調査、及び保存の諸条件と対策（収蔵・展示環境、防災、IPM、輸送と梱包等）（テキスト第二節及び第三節）
- ・伝統的保存方法と修復の実際（テキスト第四節）

これを踏まえた上で、レポート課題を作成することを通じて、資料を保存する博物館の役割や地域文化財の保存と活用のあり方について、具体的に考えていきます。

本科目の到達目標は、（1）博物館で資料を保存していくことの意義を正しく認識したうえで、収蔵や展示のための望ましい環境や、そうした環境を実現するための方法、生物被害や自然災害への対策、運搬の際の注意点、修復・修理の役割など、資料保存に関する基礎的な知識を身につけること、（2）あわせて、それらの知識に基づきながら行われる博物館活動が社会とどういった接点を持つのかを考察し、学芸員の基本的な職業倫理に対する理解を深めることです。

評価基準と成績評価方法

1. テキスト（参考文献を含む）の内容の理解
2. 課題内容の理解と調査の適切さ
3. 十分な論理性、独自性、説得力をもった受講生自身の見解の明示
4. 文章表記の正確さと構成の明瞭性

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

成績評価方法は、全課題の平均と試験の平均です。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『博物館の歴史・理論・実践2 博物館を動かす』今村信隆 編（京都造形芸術大学 東北芸術工科大学 出版局 藝術学舎）
参考文献・URL	『博物館資料保存論』石崎武志 編著（講談社） 『文化財の保存と修復7 伝統ってなに？』文化財保存修復学会（クバプロ） 『文化財の保存と修復10 博物館の役割と未来』文化財保存修復学会（クバプロ） 『文化財の保存と修復13 みんなで資料をまもる』文化財保存修復学会（クバプロ） 『文化財の保存と修復14 災害から文化財をまもる』文化財保存修復学会（クバプロ）

レポート課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	1. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入） 2. レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面8枚程度・ヨコ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に3,200文字程度・ヨコ書き 3. 宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 添削指導評価書と3. 宛名表紙は不要です。 ※芸術教養学科・アートライティングコース・科目等履修生の課題提出形態はairUのみです。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入） 2. 再提出レポート本文 3. 前回提出（=D評価）のレポート（添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 再提出用添削指導評価書と3. 前回提出レポートは不要です。 ※芸術教養学科・アートライティングコース・科目等履修生の課題提出形態はairUのみです。

課題の内容

以下の設問に答えてください。また、レポート全体の趣旨を表すタイトルを文頭に記してください（ただし、本科目では人文系資料を中心とします）。

【設問】

博物館における資料の「保存」活動について具体的に整理したうえで、「保存」と「活用」という矛盾する活動を行わなくてはならない博物館の社会的役割について、自分の考えも交えて論述してください（3,200字程度）。

TR	博物館展示論	科目コード： 23614
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※芸術学科・美術科・デザイン科・芸術教養学科の方は博物館学芸員課程に登録していること、2年次～の履修です。	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口・airU ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。ただし、芸術教養学科・アトライティングコース・科目等履修生はairUのみ。	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。 ※芸術教養学科・アトライティングコース・科目等履修生はairUの	
単位修得試験	有	
担当者	毛利義嗣*、降矢淳子、赤松祐樹、左海きほ、次六尚子	

科目概要と到達目標

学芸員は、展示を通じて、資料や作品とその展示の意義を正確に、わかりやすく、魅力的に利用者に伝える努力をしなければなりません。そのためには、展示に関する様々な知識や応用力が必要です。本科目では、博物館展示の意義と実際について理解し、展示デザインや展示解説などの工夫によってどのように博物館の展示が行われているのかについて、文献による学習と展示見学を通して考察します。

テキスト『博物館の歴史・理論・実践3 挑戦する博物館』第六章「博物館展示論」を熟読し、次の点を重点的に理解します。

- ・博物館展示の意義 特に、展示の定義と基本的理念、調査研究と展示、展示の歴史、展示の政治性や社会性について（テキスト第一節）
- ・博物館展示の方法 特に、展示の分類、展示の制作と実際、展示の技術、解説のあり方について（テキスト第一節及びテキスト第二節）
- ・資料に合わせた展示の諸形態とその実際（テキスト第三節及びテキスト第四節）
- ・展示の評価、展示における課題と展望について（テキスト第四節）

本科目の到達目標は、展示が行われる背景や歴史、展示に用いられているメディア、展示を通じた教育活動など、展示の諸形態に関する理論と方法に関する知識・技術を習得し、学芸員として必要な博物館展示についての基礎的な能力を養うことです。

評価基準と成績評価方法

1. テキスト（参考文献を含む）の内容の理解
2. 課題内容の理解と調査の適切さ
3. 十分な論理性、独自性、説得力をもった受講生自身の見解の明示
4. 文章表記の正確さと構成の明瞭性

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

成績評価方法は、全課題の平均と試験の平均です。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『博物館の歴史・理論・実践3 挑戦する博物館』今村信隆 編（京都造形芸術大学 東北芸術工科大学 出版局 藝術学舎）
参考文献・URL	『博物館をみせる 人々のための展示プランニング』K. マックリー著、井島真知、芦谷美奈子 訳（玉川大学出版部） 『美術館・博物館の展示 理論から実践まで』デビッド・ディーン 著、北里桂一 監訳（丸善株式会社） 『博物館展示論』黒沢浩 著（講談社） 『展示論－博物館の展示をつくる』日本展示学会 編（雄山閣） 『芸術展示の現象学』太田喬夫、三木順子 編（晃洋書房） 『展示の政治学』川口幸也 編（水声社）

レポート課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	1. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入） 2. レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面8枚程度・ヨコ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に3,200文字程度・ヨコ書き 3. 宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 添削指導評価書と3. 宛名表紙は不要です。 ※芸術教養学科・アトライティングコース・科目等履修生の課題提出形態はairUのみです。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入） 2. 再提出レポート本文 3. 前回提出（=D評価）のレポート（添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 再提出用添削指導評価書と3. 前回提出レポートは不要です。 ※芸術教養学科・アトライティングコース・科目等履修生の課題提出形態はairUのみです。

課題の内容

以下の設問に答えてください。また、レポート全体の趣旨を表すタイトルを文頭に記してください。

【設問】

二館以上のミュージアムを調査し、そのうち最も興味深いと思った展覧会を一つ選び、以下のポイントすべてについて、順に考察し述べなさい(3,200字程度)。

1. 展示のコンセプト（何を展示し、何を伝えようとしているか）
2. 展示の内容を伝えるためのパネルなどの展示解説（どのような種類、体裁のものを使用していたか）
3. 展示のデザイン（展示空間はどのようなデザインで構成されていたか）
4. 利用者への配慮（利用者が展示を体験しやすくするために、どのような工夫がなされているか）
5. 改善点（1～4 について、より改善することができるとすれば、どのような点が考えられるか、その理由は何か）

※論述構成として、上のポイントを本文において述べるほか、序論を「はじめに」とし、結論を「おわりに」としてまとめること。

なお、参考文献の欄の末尾に、比較対象として調査した全てのミュージアム名、展覧会名、見学日を明記しなさい（本文の文字数には含めない）。